［募集代理店］ 三菱UFJ信託銀行株式会社

メソッドMUTB

変額個人年金保険Ⅱ型2003

＜10年運用コース＞

特別勘定の月次運用レポート
2026年10月末現在

〇市場概況
〇特別勘定の運用状況
〇組入投資信託の運用レポート

変額個人年金保険のリスクと手数料について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

●変額個人年金保険は預金等ではなく、預金保険制度ならびに投資者保護基金の対象ではありません。
●解約、一部解約（特別引出を除く）をした場合や年金受取開始日以降に年金を一括受取する場合等には、一時払保険料相当額の最低保証はありませんので、受取総額が一時払保険料相当額を下回ること（元本割れリスク）があります。
●保険関係費用：ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.36%の割合で資産残高から毎日控除されます。
●運用関係費用：ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して年率0.55%（税抜0.50%）程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。
●年金管理費：年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。
●解約控除：ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の解約、一部解約（特別引出を除く）をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%～1%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。
※解約控除対象額は、解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

＊この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用（「保険関係費用」「運用関係費用」）」と「年金受取期間中の費用（「年金管理費」）」の合計額となります。また、特定のお客さまには「解約控除」がかかります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

［引受保険会社］ オリックス生命保険株式会社

本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。

ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。
（管）ORI-047

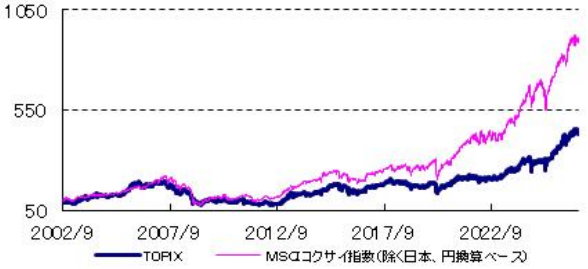
市　　場　　概　　況

	代表的な指標の騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	▲ 5.19%	▲ 1.67%	6.76%	20.76%	105.10%
	TOPIX（東証株価指数）	▲ 3.49%	▲ 0.95%	6.38%	19.01%	75.93%
日本債券	NOMURA－BPI総合	1.76%	0.48%	▲ 0.65%	▲ 5.23%	▲ 9.22%
外国株式	MSCIコクサイ指数（除く日本、円換算ベース）	0.78%	0.33%	5.24%	14.87%	89.25%
外国債券	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	1.34%	▲ 2.02%	▲ 2.81%	1.80%	22.57%
外国為替	米ドル対円為替レート（仲値）	0.12%	▲ 1.98%	▲ 1.78%	2.23%	5.37%

日経平均株価(円)の推移



日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

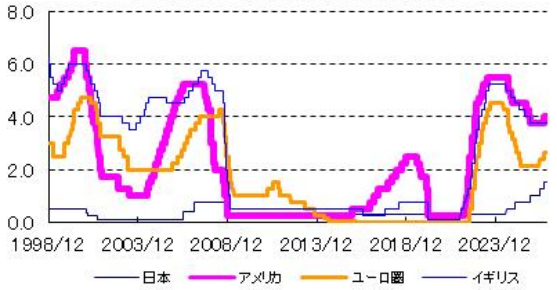


＊上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移



日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



＊上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社によって計算、公表されている、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社の知的財産です。なお、同社は、当指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※運用状況については、組入投資信託の運用レポートをご覧ください。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定と主な投資対象の投資信託

特別勘定と主な投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				主な投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計
	株　式		債　券				投資信託	現預金その他	
	日本	外国	日本	外国					(百万円)
世界バランスファンド25 MT	●	●	●	●	三菱UFJ 世界バランスファンド25VA＊	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	96.8%	3.2%	101

＊適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

投資信託の運用方針

主な投資対象の投資信託	運用方針
三菱UFJ 世界バランスファンド25VA＊	主に日本を含む世界各国の株式と債券にバランスよく投資し、中長期的に安定的な成長を目指します。資産配分はあらかじめ定められた標準組入比率にしたがいます。株式の標準組入比率は25%です。

＊適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

世界バランスファンド25 MT



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.17%	−2.59%	−2.15%	1.73%	20.99%	79.23%

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
世界バランスファンド25 MT

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱UFJ 世界バランスファンド 25VA（適格機関投資家限定）

【運用会社】
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

主要投資対象
国内株式、国内債券、外国株式、外国債券。主に三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド、三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド、三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド、三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運　用　方　針
主に日本を含む世界各国の株式と債券にバランスよく投資し、中長期的に安定的な成長を目指します。資産配分はあらかじめ定められた標準組入比率にしたがいます。

■商品概要

形態	追加型株式投資信託/バランス型
主要投資対象	国内株式、海外株式、国内債券、海外債券
運用方針	・国内株式・海外株式・国内債券・海外債券への分散投資により、信託財産の長期的な成長を目指します。 ・国内株式12.5%、海外株式12.5%、国内債券15%、海外債券60%を標準組入比率とし、これを維持します。各資産の時価変動による標準組入比率からの乖離については、1ヵ月に1回程度リバランスを行い、これを修正します。なお、リバランスに必要な資金を確保するため、保有する受益証券の一部を解約し、短期金融資産による運用とする場合があります。 ・運用は、ファミリーファンド方式で行います。 ・実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。 ・市況動向等を勘案して、標準組入比率の見直しを行う場合があります。 ・市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。
設定日	2003年12月10日
信託期間	無期限
決算日	毎年4月15日（休業日の場合、翌営業日）

■基準価額および純資産総額

基準価額（1万口当たり）	30,458円
前月末比	+116円
純資産総額	0.98億円

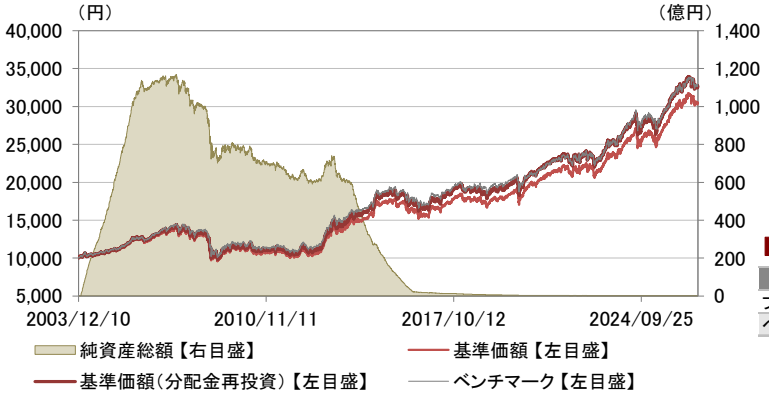
■分配金実績（1万口当たり、税引前）

決算期	決算日	分配金
第23期	2026/04/15	0円
第22期	2025/04/15	0円
第21期	2024/04/15	0円
第20期	2023/04/17	0円
第19期	2022/04/15	0円
第18期	2021/04/15	0円
設定来累計		900円

■資産構成

	基本資産配分	比率
国内株式	12.5%	12.0%
海外株式	12.5%	12.0%
国内債券	15.0%	13.7%
海外債券	60.0%	58.4%
コールローン他	0.0%	3.9%

■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額、基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後の値です。
・基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
・ベンチマークは、設定日を10,000として指数化しています。
・2023年12月29日に、当ファンドの株式のベンチマークを「配当除く指数」から「配当込み指数」へ変更しました。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	0.4%	−2.1%	−1.0%	4.4%	31.0%	226.0%
ベンチマーク	0.7%	−1.0%	−0.1%	5.0%	31.9%	229.0%

・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
　また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
・分配金実績がある場合は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

■運用担当者コメント

株式は国内で下落し、米国、英国で上昇しました。金利は国内、米国、ドイツで低下しました。また、為替は対円で米ドルが小幅に上昇し、ユーロが下落しました。
今後の世界経済は、地政学リスクが継続するなか、エネルギー価格の高止まりを背景としたインフレ圧力やそれに伴う金融引き締めの影響を受けつつも、おおむね良好な雇用環境などから個人消費が下支えとなり、底堅い成長を続けるとみています。米国では、潤沢な家計純資産や資産効果を背景とした個人消費の底堅さが続くとともに、AI(人工知能)普及に向けた大規模な設備投資が継続することで、景気は底堅く推移すると見込まれます。日本では短期的に中東情勢の緊迫化によるエネルギー関連製品の供給遅延などが懸念されるものの、企業の賃上げに前向きな姿勢などから中長期的な景気の底堅さは続くと考えます。

現在ファンドでは運用方針に従い、ほぼ標準組入比率（国内株式12.5%、海外株式12.5%、国内債券15%、海外債券60%）通りの組み入れとしています。今後についても、標準組入比率を維持する運用を行います。（運用責任者：菊地　和浩）

■組入通貨

通貨	比率
1 米ドル	36.5%
2 日本円	28.6%
3 中国元	9.5%
4 ユーロ	8.9%
5 英ポンド	3.8%
その他	12.7%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・REITの組み入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。・組入通貨比率は、為替予約等を含めた実質的な比率です。・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
世界バランスファンド25 MT

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱UFJ 世界バランスファンド 25VA（適格機関投資家限定）

【運用会社】
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

主要投資対象

国内株式、国内債券、外国株式、外国債券。主に三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド、三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド、三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド、三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運　用　方　針

主に日本を含む世界各国の株式と債券にバランスよく投資し、中長期的に安定的な成長を目指します。資産配分はあらかじめ定められた標準組入比率にしたがいます。

三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド

■基準価額の推移



・基準価額、ベンチマーク（東証株価指数（TOPIX）（配当込み））はベビーファンドの設定日を10,000として指数化しています。

■運用担当者コメント（マザーファンドベース）

今月の国内株式市況（TOPIX）は前月末を下回る水準で取引を終えました。原油高が続いたことや、巨額のAI（人工知能）関連投資に対する収益性への懸念が広がったことなどが株式市況の重石となりました。
また、長期金利が低下して利ざや拡大期待が後退した銀行株の下落も、株式市況の下押し要因となりました。
今月のファンド騰落率は、ベンチマークを下回る運用成果となりました。業種配分については、銀行業をオーバーウェイトとしていたことなどがマイナスに影響した一方、サービス業をオーバーウェイトとしていたことなどがプラスに寄与しました。銘柄選択効果については、「メイコー」、「エスビー食品」などがマイナスに影響、「リクルートホールディングス」、「住友ファーマ」などがプラスに寄与しました。今月の売買では、業績期待が高くかつ割安感のある銘柄へスイッチする方針の下、新規投資を含めて「藤倉コンポジット」などの組入比率を引き上げ、全売却を含めて「ソフトバンクグループ」などの組入比率を引き下げました。
当面の国内株式市況については、世界的なインフレ動向など不透明な要素を注視する必要はあるものの、バリュエーション面で過度な割高感はみられず、積極的な財政政策も継続すると見込まれることから、底堅く推移すると考えています。
AI関連投資の継続性が不安視される一方で、AI活用による生産性向上も進んでおり、その恩恵を享受できる企業を積極的に組み入れる方針です。
また、中長期的には、資本コストや株価を意識した経営が浸透していく中で、企業経営の高度化が進展し、企業価値を拡大させる企業が多く現れるとみています。
このような認識を踏まえ、ボトムアップによるリサーチを丹念に実施することで、構造改革など企業の非連続的な変化や株価の見直しが期待できる銘柄の発掘に取り組む方針です。（運用主担当者：長尾 衛）

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	−5.0%	0.3%	6.2%	26.5%	92.8%	757.9%
ベンチマーク	−3.5%	−0.0%	7.5%	21.7%	88.8%	544.3%

・設定来（各期間の騰落率）はベビーファンドの運用期間に応じたものです。

■組入上位10業種

	業種	比率	ベンチマーク構成比
1	電気機器	17.0%	20.1%
2	銀行業	14.3%	12.0%
3	サービス業	13.4%	4.9%
4	食料品	6.8%	2.9%
5	卸売業	6.0%	7.7%
6	輸送用機器	5.6%	5.2%
7	小売業	5.2%	4.0%
8	医薬品	4.6%	3.6%
9	保険業	4.3%	3.8%
10	情報・通信業	3.3%	6.4%

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 57銘柄

	銘柄	業種	比率	ベンチマーク構成比
1	リクルートホールディングス	サービス業	8.9%	2.6%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.5%	3.8%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	4.2%	2.7%
4	日立製作所	電気機器	3.7%	2.3%
5	メイコー	電気機器	3.5%	0.0%
6	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.2%	1.9%
7	三菱商事	卸売業	3.2%	1.5%
8	東京海上ホールディングス	保険業	2.8%	1.5%
9	三井物産	卸売業	2.8%	1.3%
10	沖電気工業	電気機器	2.6%	0.0%

三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド

■基準価額の推移



・基準価額、ベンチマーク（MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース））はベビーファンドの設定日を10,000として指数化しています。

■運用担当者コメント（マザーファンドベース）

海外株式市況はほぼ横ばいで推移しました。
月前半は、雇用の伸び鈍化を受けた追加利上げ観測の後退などを背景に、株価は上昇しました。その後は、インフレ関連指標の上振れ、人工知能（AI）関連企業の資金調達や債務負担、中東情勢をめぐる懸念が重荷となり、下落する場面もありました。ただ、米連邦公開市場委員会（FOMC）での政策金利の据え置きや底堅い企業決算が相場を支え、月間ではほぼ横ばいで推移しました。
外国為替市況については、円に対して米ドルは小幅に上昇（円安）しました。
11月は米中間選挙の結果とその影響や米国をはじめとするグローバル景気の見通しやインフレに加えて、7-9月期決算発表で示唆される企業の業績見通しが注目されます。
このような環境のもと、投資方針は、引き続き個別銘柄選択では、株価に割安感があり、独自の成長テーマを持った銘柄に注目しています。投資国配分については、北米、欧州、アジア・オセアニアともにニュートラルとします。（運用主担当者：柳原　武士）

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	−0.7%	−1.2%	3.3%	8.0%	104.7%	1156.9%
ベンチマーク	0.8%	0.6%	5.8%	16.2%	96.8%	1083.8%

・設定来（各期間の騰落率）はベビーファンドの運用期間に応じたものです。

■組入上位10ヵ国・地域

	国・地域	比率
1	アメリカ	79.1%
2	スペイン	3.6%
3	イギリス	3.2%
4	カナダ	2.0%
5	デンマーク	1.9%
6	フランス	1.8%
7	ドイツ	1.1%
8	イタリア	1.0%
9	フィンランド	1.0%
10	オーストラリア	0.8%

■組入上位10業種

	業種	比率
1	半導体・半導体製造装置	15.0%
2	金融サービス	7.7%
3	ソフトウェア・サービス	7.4%
4	メディア・娯楽	6.9%
5	医薬品・バイオテクノ・ライフ	5.2%
6	テクノロジ・ハードウェア・機器	5.1%
7	ヘルスケア機器・サービス	5.0%
8	資本財	4.8%
9	一般消費財・サービス流通・小売り	4.6%
10	銀行	4.3%

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 66銘柄

	銘柄	国・地域	業種	比率
1	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.8%
2	ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	3.8%
3	NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	3.3%
4	CHUBB LTD	アメリカ	保険	3.3%
5	TESLA INC	アメリカ	自動車・自動車部品	3.1%
6	MICRON TECHNOLOGY INC	アメリカ	半導体・半導体製造装置	3.1%
7	APPLE INC	アメリカ	テクノロジ・ハードウェア・機器	2.9%
8	SOFI TECHNOLOGIES INC	アメリカ	金融サービス	2.6%
9	IBERDROLA SA	スペイン	公益事業	2.5%
10	UBER TECHNOLOGIES INC	アメリカ	運輸	2.4%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
世界バランスファンド25 MT

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱UFJ 世界バランスファンド 25VA（適格機関投資家限定）

【運用会社】
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

主要投資対象
国内株式、国内債券、外国株式、外国債券。主に三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド、三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド、三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド、三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運　用　方　針
主に日本を含む世界各国の株式と債券にバランスよく投資し、中長期的に安定的な成長を目指します。資産配分はあらかじめ定められた標準組入比率にしたがいます。

三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

■基準価額の推移


・基準価額、ベンチマーク（NOMURA－BPI＜総合＞（国内債券投資収益指数））はベビーファンドの設定日を10,000として指数化しています。

■運用担当者コメント（マザーファンドベース）
10月の国内金利は、軟調な株式相場や米国金利の低下などを背景に、各年限の金利が低下しました。月末の10年国債利回りは2.77%近辺となっています。事業債の国債とのスプレッド（利回り格差）は概ね横ばいとなりました。
実際の運用では、ファンド全体のデュレーションについて、ベンチマーク対比短めを中心に調整しました。また、事業債および円建外債を中心にベンチマーク対比多めの保有を維持しました。
国内景気は一部に弱めの動きもみられますが緩やかに回復しています。海外経済は、一部に弱めの動きも見られますが、総じて緩やかに成長しています。輸出は、グローバルなAI関連需要の堅調な増加を背景に緩やかに増加しています。個人消費は、雇用・所得環境の改善を背景に底堅く推移しています。先行きにつきましては、海外経済の緩やかな成長や緩和的な金融環境などを背景に、緩やかな回復傾向が続くものと思われます。国内債券相場は、政府の財政政策や国債需給懸念、日銀金融政策動向などを睨みながらやや上値の重い神経質な展開を予想します。国内事業債のスプレッドについてはもみ合いでの推移になるものと思われます。以上の見通しの下、デュレーションは当面ベンチマーク対比短めを基本にリスク度合いを調整し、事業債および円建外債を中心にベンチマーク対比多めの保有を維持する方針です。（運用主担当者：小口　正之）

三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド

■基準価額の推移


・基準価額、ベンチマーク(FTSE世界国債インデックス（除く日本・円ベース））はベビーファンドの設定日を10,000として指数化しています。

■運用担当者コメント（マザーファンドベース）
【市況動向】
当月の米独長期金利は低下しました。米国景気は底堅く推移したものの、半導体株・ハイテク株の下落などを背景にリスクセンチメントが悪化し、リスク回避の動きから米国長期金利は低下しました。独長期金利は、フランスの財政・政治情勢への懸念を背景に、欧州中央銀行(ECB)による利上げ観測が後退し、相対的に安全性の高いドイツ国債などが買われたことなどから、低下しました。為替市場では、米ドルは対円で小幅上昇、ユーロは対円で下落しました。米ドルは、米国長期金利の低下や株式市場の調整を背景に一時的に円高が進む局面があったものの、原油価格が高止まりする中、概ね狭いレンジ内で推移し、月を通じてみると対円で小幅上昇しました。ユーロは、フランスの政治情勢等への懸念に加え、下旬の株式市場の調整を受けたリスク回避の円買いなどを背景に、対円で下落しました。投資行動としては、債券デュレーションは投資割合が高い米国は月の初めまでベンチマーク比長めとしその後同短め、欧州は月の初めまで同中立とし、その後同長めとしました。カントリーアロケーション（通貨配分）は、投資割合が高い米ドルは10月上旬までベンチマーク比少なめとしその後同中立、ユーロは同少なめで維持しました。
【今後の運用方針】
債券デュレーションは現行の方針を基本に機動的に調整します。通貨配分では、必要に応じて現行比率の調整を行います。（運用主担当者：松津　大輔）

■騰落率
	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.1%	0.7%	0.1%	−2.8%	−6.4%	19.7%
ベンチマーク	1.8%	0.5%	−0.7%	−5.2%	−9.2%	11.0%

・設定来（各期間の騰落率）はベビーファンドの運用期間に応じたものです。

■ポートフォリオ特性
	当月末
最終利回り	2.5%
直接利回り	1.7%
デュレーション	6.0

■債券格付分布
格付種類	比率
AAA格	67.1%
AA格	14.2%
A格	14.6%
BBB格	0.8%
BB格以下	0.0%
無格付	0.0%

・格付は、R&I、JCR、S&P、Moody'sのうち最も高い格付を表示しています。

■組入上位10銘柄
組入銘柄数: 80銘柄

	銘柄	種別	クーポン	償還日	比率
1	第197回利付国債（20年）	国債	3.7000%	2046/06/20	16.1%
2	第92回利付国債（30年）	国債	4.2000%	2056/09/20	7.7%
3	第91回利付国債（30年）	国債	4.0000%	2056/06/20	4.4%
4	第1386回国庫短期証券	国債	0.9821%	2026/12/10	4.0%
5	第1406回国庫短期証券	国債	1.1149%	2026/12/14	3.6%
6	第1408回国庫短期証券	国債	1.2067%	2026/12/21	3.6%
7	第384回利付国債（10年）	国債	3.1000%	2036/09/20	3.3%
8	第1400回国庫短期証券	国債	1.0919%	2026/11/16	3.2%
9	第1404回国庫短期証券	国債	1.1076%	2026/12/07	3.2%
10	第1351回国庫短期証券	国債	0.8627%	2026/12/21	3.2%

■騰落率
	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.6%	−3.3%	−3.3%	1.9%	21.9%	189.5%
ベンチマーク	1.3%	−2.0%	−2.8%	1.8%	22.6%	164.1%

・設定来（各期間の騰落率）はベビーファンドの運用期間に応じたものです。

■ポートフォリオ特性
	当月末
最終利回り	4.0%
直接利回り	3.6%
デュレーション	5.8

■債券格付分布
格付種類	比率
AAA格	12.6%
AA格	54.2%
A格	21.6%
BBB格	5.8%
BB格以下	0.0%
無格付	0.0%

・格付は、S&P、Moody'sのうち最も高い格付を表示しています。

■組入上位10ヵ国・地域
	国・地域	比率
1	アメリカ	39.2%
2	中国	15.6%
3	韓国	6.0%
4	イギリス	5.7%
5	オーストラリア	5.3%
6	イタリア	5.0%
7	スペイン	3.8%
8	カナダ	2.1%
9	フランス	2.0%
10	ノルウェー	1.8%

■組入上位10銘柄
組入銘柄数: 78銘柄

	銘柄	種別	クーポン	償還日	国・地域	比率
1	4.25 T-NOTE 280731	国債	4.2500%	2028/07/31	アメリカ	10.1%
2	3.375 T-NOTE 270915	国債	3.3750%	2027/09/15	アメリカ	9.3%
3	6 G2 MB1479 5610 MB1479	MBS	6.0000%	2056/10/20	アメリカ	5.2%
4	1.63 CHINA GOVT 301025	国債	1.6300%	2030/10/25	中国	5.0%
5	2.67 CHINA GOVT 330525	国債	2.6700%	2033/05/25	中国	4.1%
6	1.4 CHINA GOVT 281125	国債	1.4000%	2028/11/25	中国	2.9%
7	3 T-BOND 441115	国債	3.0000%	2044/11/15	アメリカ	2.6%
8	5.125 T-BOND 560815	国債	5.1250%	2056/08/15	アメリカ	2.5%
9	1.78 CHINA GOVT 351115	国債	1.7800%	2035/11/15	中国	2.2%
10	2.7 O.A.T 310225	国債	2.7000%	2031/02/25	フランス	2.0%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・利回り、デュレーションは組入銘柄の純資産総額に対する比率で加重平均しています。・デュレーション調整のため、債券先物を組み入れることがあります。この場合、デュレーションについては債券先物を含めて計算しています。・利回りはファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。